

空気が味方をしてくれる。

卓球クラブの先生

私は卓球クラブに通っていました。試合の時、競り合うと緊張してしまい、そこから負けてしまうことが多々ありました。「なんて精神的に弱いんだ。」と自分でもよく落ち込んでいました。そんな時に、先生が私にこの言葉をかけてくれました。練習の時に流した汗が蒸発し、空気に混ざり、私を応援してくれます。

私は中学生の時に親を亡くしています。親の髪や肉が燃やされ、空気に混ざり、私の背中を押してくれます。

自分の努力や、親の支えがあると思うと、とても心強く、力が湧き上がってきます。それと同時に見守られていると思うと、どんな些細なことでも全力でやろうという思いに駆られます。

受賞にあたって

中学一年生から高校二年生までの五年間、通っていた卓球クラブの先生のことばです。先生が言ってくれたこのことばが響いたように、私にとって両親は、緩みそうなきにいつも律してくれる存在です。大学受験に向けて、卓球クラブを辞めてしまいました。先生とは今でもたまに連絡を取り合っています。先生は昔、高校の先生でもあったそうなので、私も将来は、先生のようになり、子どもたちに勉強を教えながら、卓球部の顧問を務める高校の先生になりたいと思っています。そのため今後は理系の大学、そして大学院への進学に向けて頑張っています。